

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動や本校の良さを地域に発信しきれていない。 ・総合的な学習の時間や進路関係の企画（補習、小論文指導、乗鞍学習会など）にマンネリ化がみられ否定的評価が増えた。 ・「一人一人の可能性を伸ばすことに努めている」において肯定的な意見保護者で90%を超えた。全職員が認識し、効果的に継続したい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、YCK報告会の一般公開 ・現代フォーラムの全校生徒参加 ・地域連携による活力ある高校づくり推進協議会の開催 ・東京大学宇宙線研究所等の研究機関との連携 ・地域課題解決型キャリア教育YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクトの推進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、職員会議での情報共有と意思統一 ・キャリア推進部へのサポート体制の構築 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 本校の向かうべき姿の共通理解 (2) 情報発信力の強化 (3) 飛騨市や研究機関との連携 (4) 地域に愛される吉城高校	(1) 学校評価 生徒及び保護者アンケート (2) HPの素早い更新 (3) 活力ある高校づくり推進協議会 (4) YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクト	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者アンケートの分析 ・分掌長ほか誰でも更新できるHP ・魅力ある高校づくり ・YCKプロジェクト報告会 	① 否定的意見への対応 ② 毎週の更新回数 ③ 生徒の所属意識の向上 ④ 地域課題解決意識の共有	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○新聞テレビなどマスコミへの露出が多くなり、本校の良さを発信で来た。 ○行政や地域の期待と評価が高まった。 ◎文化祭の日曜開催一般公開、YCK報告会の一般公開を実施した。 ●すべての行事企画が有効に繋がらない。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・行事の一般公開を更に推進する。 ・自らの頭で考え積極的かつ自発的に参加する生徒を育てる（リーダーの育成）ことで、地域に貢献し、地域から愛される高校を目指す。 		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。																					
2 評価する領域・分野	◇教育課程，学習指導																					
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「習熟度授業や少人数授業がありそれが学習の理解につながっている」は本校のウリの1つであったが、学習理解に否定的意見が増えた。「授業改善・アクティブラーニング」の研修会や先進校の学校視察を充実させ、経験の浅い教員とベテラン教員との研修会を実施したい。 「総合的な学習の時間が有意義」の否定的意見が増えた。ボランティア活動の意義を生徒に理解させるとともに、進路指導部やキャリア推進部とともに内容の精選を行いたい。 																					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを実施し、分析して授業改善を継続する。 公開授業・研究授業や教科研究会を実施して指導力向上に努める。 効果的な習熟度別授業や進路希望別授業を実施する。 初期指導や定着指導を徹底し、学習習慣を確立する。 普通科総合コース／学び探求コースと文系大学進学にも対応した理数科の教育課程の編成を行う。 真面目だが控えめな本校生徒が、関心・意欲・態度を強く持てるような教育活動を多く行い、アクティブラーニングを推進する。 																					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各学年会及び教科会と連携 公開授業や研究授業，教科会，教員研修会の充実 教育課程委員会及び学習指導委員会での活発な議論 																					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																					
(1) 本校の向かうべき姿の共通理解 (2) 学力向上・家庭学習の定着 (3) カリキュラムの編成 (4) 情報発信・地域に愛される吉城高校	(1) 企画委員会・学習指導委員会・WG会の進捗 (2) 定期考査，課題テスト，模試，学習時間調査の統計 (3) 教育課程委員会の進捗 (4) 中3生の9月の進路希望調査結果や高校入試の志望者数，ふるさと教育参加者数 等																					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																				
<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業による指導力向上 アンケート・調査による学習活動の点検と改善 初期指導による高校での学習活動の定着 各分掌における到達目標の設定と評価 各教科の授業改善 	①授業は改善されたか ②家庭学習時間が確保されているか ③個に応じた学力はついたか ④教育活動は円滑に行われているか ⑤生徒は満足しているか	<table border="0"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○YCKプロジェクトにより地域の期待が高まり，繋がりができている。 ○新2,3年生の普通科のクラス編成変更により，進路希望別クラス編成が可能となった。現2年生は双方のクラスともに意欲を持って学習に取り組んでいる。 △活力ある高校づくり協議会WGと連携をしながら，進学型単位制高校への移行にむけて教育課程を見直し，地域に貢献しさまざまな進路希望に対応できるカリキュラムを作成したい。 ●教員研修会や学校視察で外部からの刺激を取り入れているが，授業改善への職員の意識を高めることに苦労している。 																					
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> 校内での公開授業・研究授業や学校視察・職員研修会での研鑽により，自らの頭で考え積極的かつ自発的に参加する生徒を育てることで，地域に貢献し，地域から愛される高校を目指したい。 																						

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 生徒指導全般の項目に対して高評価（A段階）をつけ、現在の指導を支持してくれる保護者、生徒の数値は昨年度よりも高い。しかし、低評価（D段階）を示している数値も昨年度より若干増えている。現在の指導に納得をしている保護者、生徒がいることは心強い。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・ 倫理観や規範意識、自他の人権と生命を尊重する態度を育てる。地域と一体となって生徒の健全育成を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 学年会や関係分掌との連絡を密にし、迅速に組織的に対応する。 ・ MSリーダーズの活動をより自主的に行う。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに指導の共通理解、共通行動を行う。 (2) 「生活規律、規範」への注意事項を具体的に提示し、その場での指導を行う。	(1) 問題行動やいじめの発生の有無。 (2) 生徒、保護者対象のアンケート結果およびマニフェストの数値目標。 (3) 生徒の人権が尊重され安全かつ安心な学校生活を送れたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ 日常生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導、情報モラル指導）の実施。 ・ 規範意識の高揚を図るための文書の配布や注意呼びかけの実施。	① 問題行動やいじめの発生の有無。 ② 生徒、保護者対象のアンケート結果およびマニフェストの数値目標。 ③ 生徒の人権が尊重され安全かつ安心な学校生活を送れたか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○身だしなみや、登校下校のマナーは良くなってきたが、注意を怠るとすぐに乱れる要素は十分感じる。 ○いじめについて学年会と協力し、管理職の指示の下迅速に対応できた。 ●1年生でいじめが2件発生した。その他にも、人間関係に起因する問題が多かった。 ●職員の共通理解、共通行動という面では職員間に温度差がある。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・ 職員の共通理解に立ったうえでの継続的で温度差のない指導の徹底。 ・ いじめ防止、問題行動防止のために、担任、教科担任の情報交換を密に行い、生徒理解に努める。		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒は本校の進路指導を概ね肯定的に評価しているが、それぞれの可能性を引き出すよう、個に応じたより丁寧な指導を求めている。 ・保護者も本校の進路指導を概ね肯定的に評価しているが、それぞれの保護者のニーズに合った進路情報の提供を求めている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒が個々の適性や能力に応じて、生きがいをもって人生を歩めるライフプランニングができるようなキャリア教育を進める。 ・生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報の提供をさらに充実させる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・渉外部、キャリア推進部及び各学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路指導計画に基づき、低学年の進路学習、小論文学習及びYCKプロジェクトの内容を検討する。 (2) 模試のデータ分析を各学年・各教科の指導	(1) 進路研究、小論文学習及びYCKプロジェクトを通じて、各自の進路意識が高められたかどうか。 (2) 模試分析が教科指導等に活かされているかどうか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・3年生の面接・小論文指導を全職員による個別指導に加え、生徒自身によるグループでの面接練習の機会を設け、定着させた。 ・YCKプロジェクトの様々な活動への参加を通じ、自分の在り方、生き方や進路を考えさせた。	① できるだけ早い時期に進路目標を設定できたか。 ② 情報を分析して、自分の意見をまとめる力はついたか。 ③ 模試等の結果を分析し、教科指導等に活用できたか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○全職員による3年生の面接・小論文指導が定着し、さらにグループによる面接練習を生徒自身が行い、回数を重ねることとで自信をもって臨めるようになった。 ○YCKプロジェクトの様々な活動への参加を通じて、多数の生徒が地域の状況について知り、地域課題について考え、自分なりの意見を持てるようになってきた。 ●YCKにおける意見等の発表の仕方。 ●模試の結果分析を各学年、各教科でも行い、特に授業で活用する。 ●受験書類等の書き方や提出期限等を何度説明してもできない生徒が増えてきた。	
12 来年度に向けての改善方策 ★3年生になっても進路を自分のこととして考えられない生徒が増えてきた。 ・「総合」においてグループ討議や効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ機会を設ける。 ・生徒の進路希望状況を踏まえた、低学年でのキャリア教育を充実（地元企業説明会など）する。 ・教員研修会で模試結果分析の仕方などを学び、授業で反映し、生徒にフィードバックする。 ・入学時点から提出期限の大切さ等、社会人として身につけておくべきことについて粘り強く指導する。		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 部活動について、否定的にとらえている生徒が大幅に増加した。活動を活発化する以前に人数がそろわない部も出てきている。 学校行事の充実についても否定的にとらえている生徒が増えている。行事は削減の方向で動いており、行事の内容を充実する必要がある。 学校行事を肯定的にとらえている保護者は昨年度より若干減少しているが、多くの保護者が肯定的にとらえている。 部活動についても多くの保護者が肯定的な意見であるが、否定的にとらえている保護者が増加している。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実を図る。部活動に目的意識を持って、自主的・自発的に参加させることにより、部活動のより一層の活性化を図る。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に執行部会をもつ等生徒会執行部と特活職員の連携を密にする。 特活部と他の分掌、担任との連携を密にする。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 執行部会・生徒議会・各種委員会活動の活性化 広報活動の活性化 (2) 部活動の形態・内容・方法・環境整備等の援助	(1) 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況アンケートの実施とその結果分析 (2) 部活動予算及び備品請求の配合・部活動参加人数		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会諸行事に向けて執行部会、生徒議会、体育委員会、大文化委員会、柏葉祭実行委員会等の会議の開催と、広報活動による情報提供 部紹介、壮行会、伝達表彰の実施 部活動費及び備品費の適正配分と活動環境の整備 	①生徒会活動を活性化させ、球技大会・柏葉祭等の諸行事に充実感や達成感を味わらせることができたか。 ②目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。	A B C D A B C D	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事では、それぞれのねらいに応じた全校生徒の主体的な取り組みと協力体制により、多くの生徒が充実感や達成感を味わうことができた。 ○部活動では、多くの生徒が年間を通し目的意識を持って参加することができ、県大会上位入賞、地区大会優勝や最優秀賞の受賞などめざましい活動があった。 ●柏葉祭や球技大会などの諸行事ですべての生徒が充実感や達成感を味わえるような企画・運営。 ●部活動の活性化。 		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と特別活動部の連携をさらに密にし、生徒の意見に耳を傾ける。 3年間継続して活動できる部活動の選択の支援。 			

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇環境美化・安全点検・防災	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃に関しては、週間重点掃除箇所を毎日放送で連絡、課題を持たせて行ったが徹底されていない面がある。生徒・職員の清掃活動の意識が低いと考える。定期的な掃除状況チェック等を環境委員・保健委員と保健厚生部の職員で行い、学校全体の美化意識向上を図りたい。 ・健康管理については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮している。また、安全・衛生面では事務部との連携を図りながら、早めの対応に努めている。 ・防災に関しては、昨年度に引き続き2年生防災リーダーが中心となり、2学年対象で災害図上訓練を行った。生徒と共に危機管理意識向上について考えていきたい。また、命を守る訓練を更に工夫し防災意識を高めていきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検診の受診結果を把握、自己の健康管理ができるようにする。 ・事故防止や安全管理に対する意識の高揚に努める。 ・積極的な環境美化に努める（教室環境、トイレ清掃について）。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会、安全衛生委員会 ・生徒保健委員会、生徒環境委員会、YCK生徒防災担当者 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各種検診の事後措置、健康相談 (2) 生徒対象の保健だより	(1) 検診後、精密検査等の再受診率 (2) 日本スポーツ振興センターへの災害報告等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個人への受診勧告、健康相談、保健だより等での健康面の啓発活動。 ・職員・生徒への事故防止の周知徹底、体育授業時、部活動時における事前指導及び点検。 ・月1回職員による施設等の安全点検・職員と生徒による教室環境衛生点検・トイレ環境衛生点検、生徒によるHIBINO点検(毎日)での教室環境への整備意識づけ、週間重点掃除箇所による美化意識向上。 ・環境委員によるゴミの分別収集、トイレ使用マナーの励行。 	①生徒の健康管理 ②事故防止 ③安全管理、環境整備 ④防災	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○年々各種検診・検査については職員の協力や生徒の受診マナーについて学校医から高い評価を受けるなど良好になり、滞りなく実施できた。 ○保健委員によるトイレ点検、環境委員と職員による環境衛生点検、生徒によるHIBINO点検、ゴミ分別収集箱の新設置などにより環境美化に対する意識が向上してきた。また、全職員による安全点検により、事前に危険箇所等迅速な対応ができた。本年度、一部トイレの洋式化が実現した。 ●トイレの使用マナーがまだ十分とは言えない。マナー教育が課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・エピペンを必要とする生徒が在籍しており、来年度も引き続き年度当初に講習会を行う必要がある。 ・本年度4回命を守る訓練を行った。さらに災害時に対応できる能力を身に付けさせる工夫ある訓練を検討していきたい。 		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育相談	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校からの不登校生徒も毎年複数名入学し、生徒も多様化しているため、保護者や職員間の連携を図り、生徒の状況を正確に把握して対応する必要がある。 生徒への「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」という項目では肯定的な意見が70.3%で、一昨年度から肯定的意見が7割台で安定している。保護者への「教職員は悩みを持つ生徒に対して親身に相談に乗っている」という項目では、肯定的意見が80%で昨年度よりかなり増加し、生徒・保護者の学校の相談体制への評価は概ね肯定的である。生徒や保護者において教師が相談相手として位置づけられており、また教師も親身な対応をしていることがわかる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な相談活動と情報交換により生徒の状況把握に努め、関係者との連携を図って、高校生活への適応と自立への支援をする。 人権教育を推進し、自他の人権を尊重する態度を育てる。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 担任や学年会との連携、職員会議での情報収集 生徒指導部や保健室との定期的な情報交換、連携 スクールカウンセラー（SC）との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校不適応生徒に関する情報収集、情報交換による状況把握 (2) 関係者との連携と相談活動	(1) 情報交換が不断に行われているか。 (2) 生徒の状況を踏まえた適切な連携と相談活動が実施されているか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 情報収集と情報交換（担任・学年会・生徒指導部会・保健室・職員会議等） セラプラス、夏休み明けの統一LHRの実施 日常的な相談活動、SCとの連携 迷惑調査、人権統一LHRの実施、「人権便り」の発行 	① 情報交換による共通理解ができているか。 ② 日常的な相談活動やSCとの適切な連携ができたか。 ③ 人権意識を高め、人権侵害の早期発見・早期対応に努めているか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校不適応生徒に関する様々な場での情報収集と情報交換によって、職員間の共通理解が得られ、配慮を持った指導ができた。 ○ セラプラスの実施、職員研修会、迷惑調査の集計結果報告、夏休み明けの統一LHR実施などを通して、生徒理解を深めることができた。 ● SCと連携し、生徒、保護者との面談、教員の相談への助言などで効果をあげているが、さらに効果的に活用するための方法を検討したい。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 不登校や困り感を持つ生徒に適切に対応するため、教育相談研修会の内容やSCの活用方法を検討する。 		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇図書部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事の充実を望む声がある。 ・利用しやすい図書館が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・小論文、課題研究をはじめとする学習活動のための資料収集と情報提供を行う。 ・資料を効果的に利用し、読む力だけでなく、自ら考え問題提起のできる力の育成をめざす。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書委員会（職員） ・図書部 ・図書委員会（生徒）	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館の円滑な運営 (2) 「現代フォーラム」の継続実施	(1) 図書館システムの活用 (2) 生徒及び職員の図書館利用 (3) 行事の運営・内容の充実	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・「図書館システム」の登録作業及び新システムへの移行 ・現代フォーラムの実施 ・NIEに対応する新聞の準備	①利用しやすいように、資料の管理ができるようになったか。 ②生徒の考える力を伸ばすことができたか。 ③学習活動への活用ができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
11 成果・課題	○図書館の運営は、継続してスムーズに行えた。 ○「現代フォーラム」のテーマや発表内容等については概ね好評であった。 ●「現代フォーラム」の時期や場所等については課題が残った。 ●図書館の学習指導における活用はまだ不十分である。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・「現代フォーラム」のあり方について検討し、新たな工夫をする。 ・学校の教育活動に対する図書館の役割や意義を周知させる。		

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇渉外部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・家庭との連携——学校からの発信は理解されているが、配布物が保護者に渡っていない場合がある。 ・地域理解——吉城高校ニュース等で、生徒にわかるようにPRしたい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・育友会活動の活性化。同窓会70周年準備。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・校内70周年準備委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 育友会本部役員会での意見の集約 (2) 70周年実行委員会の運営に協力	(1) 行事のアンケート (2) 実行委員会の進展状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・育友会バザー、育友会進路フォーラム等、本部役員の方の意見を第1に考えた。 ・70周年実行委員会を2回実施し、打合せ会を4回、各部の会議も数回行った。	①育友会役員、保護者が満足したか。 ②同窓会70周年の準備が順調に進んだか。	A B C D A B C D	
11 成果・課題	○育友会フォーラムの後半は、パネリストによるグループ相談会を取り入れ、好評だった。 ○同窓会70周年の準備は、実行委員会が組織化され進んだ。 ●育友会行事の工夫が、保護者の参加数の増加に結び付いていない。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 育友会行事の情報発信力を強化する。(配布物やメール配信等) 70周年記念事業に対して、卒業生による校内実行委員会を活性化する。			

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ キャリア教育 YCK [吉高地域キラメキ] プロジェクト	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・プロジェクトリーダーを中心に生徒が主体的に取り組めるよう、助言者の支援を得て活動しているが、リーダーの取組が学校全体に広がっていない。 ・総合的な学習の時間や LHR の内容を見直す必要がある。生徒の課題解決能力を段階的に伸ばせるような実施計画作成に、先進校視察で得たことを反映させたい。 ・本校の地域連携による取組が浸透してきた。プロジェクトを通して、生徒が地域社会と課題を共有し、活動で得た体験が進路実現につながるよう、2月の報告会で成長した生徒の姿を多くの方に見ていただけるように準備していきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒が地域の未来を創る仕組みを地域と連携して築き、YCKプロジェクトを通して、生徒の課題解決能力を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校全体で継続して取り組めるよう、学校・行政・地域との連携を図る。 ・生徒が主体的に取り組めるよう、地域と連携しながらリーダーを育成する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域（行政・団体・市民等）と「講演会」を開催し、地域課題についての関心を高め、理解を深めさせる。 (2) 地域課題分野ごとにプロジェクトリーダーを結成する。 観光（教務部、英語科）/教育（進路指導部、理科科） 福祉（家庭クラブ）/防災（特別活動部、生徒指導部）	①振り返りシート・ESDパスポート ②生徒・保護者対象アンケート結果吉城高校版マニフェスト数値実績 ③進路実現につながった生徒の様子	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
【地域観光】【地域福祉】【地域教育】【地域防災】の4分野31活動にのべ1,083名が参加した。（詳細は裏面） ・全校の活動状況（分野ごとの活動数と参加人数） 【観】7(132),【福】6(328),【教】9(119),【防】6(483) 【リーダー研修】10(15),【地域を知る講座準備など】2(6) ・学年別の活動状況（活動数と参加人数）	①振り返りシート・ESDパスポート ②生徒・保護者対象アンケート結果吉城高校版マニフェスト数値実績 ③進路実現につながった生徒の様子	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○生徒がより主体的に地域と関わり、様々な体験をしたことを進路実現につなげられるように、YCKプロジェクトリーダーを結成し、地域の人材からコーチングを受けている。 ●中長期的な将来を見据えた改革を進め、地域の子どもの数が減少する中で、質の高い教育を保証し、生徒一人一人の進路希望を実現する高校として、YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクトを取り入れた多様なコースや科目設定が可能な教育課程を編成し、課題解決能力が求められる新しい大学入試制度に対応する。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・YCKプロジェクトの目的が、「問題解決能力」の育成であるため、富士市立高校で得たことを「総合的な学習の時間」の見直しに生かしていきたい。地域の行政からも全面的な協力が得られるので、WGを中心に早急に検討を始めたい。 ・生徒が「何を目的に学ぶのか」受動的な活動に終えないようにしたい。事前準備では動機づけを丁寧に行い、事後の振り返りでじっくり深めたことを次のアクションにつなげられる時間が確保できるよう、カリキュラムマネジメントを進める必要がある。 ・日頃の授業改善のポイントに、生徒が安心して「自分の意見や考え」が言えるような場面を設定することを入れる。 ・様々な問いかげや仕組みから、人生や将来の職業選択に役立つ大切な価値観、自分の好き・得意を見つけ、コミュニケーション力、前向きに生きるためのメンタルスキルを生徒が身にけられるように、多くの地域の方々と触れ合うことで、地域への関心や愛着を深めていく機会を、地域の協力を得ながら生徒や保護者に提供する。		

実施日	活動名 (時間)	参加人数	分野
		学年別内訳 1年/2年/3年	
通年	プロジェクトリーダー (20)	0 / 8 / 7	総合
4/17	古川祭英語観光案内研修 (古川中) (1)	0 / 0 / 7	観光
4/19	古川祭英語観光案内 (3)	7 / 17 / 56	観光
5/20	里山サイクリング (4)	0 / 2 / 0	観光
5/24	大垣ユネスコ講演会 (1)	0 / 3 / 0	総合
6/6	スマイル広場 (2)	0 / 2 / 10	福祉
6/15	外来植物防除 (1)	0 / 61 / 0	防災
6/24	フレンドリースクール (2)	0 / 2 / 6	福祉
6/26	ひまわりプロジェクト 学校種まき(2)	12 / 2 / 10	防災
6/28	美ら地球講演会 (1)	0 / 3 / 0	総合
7/8	ひまわりプロジェクト 地域種まき(4)	11 / 2 / 6	防災
7/13	増島保育園交流 (1)	0 / 0 / 35	教育
07/19	和光園交流会 (2)	28 / 36 / 44	福祉
7/22	絵本読み聞かせ (4)	1 / 0 / 3	教育
8/1	サイエンス教室 (4)	0 / 18 / 0	教育
8/3, 4 21	学習サポーター (古川中) (4)	2 / 11 / 10	教育
8/4~10	台湾交流海外派遣 (40)	0 / 7 / 6	観光
8/7	学習サポーター (国府中) (4)	3 / 1 / 3	教育
8/16	大正大学地域調査 (6)	0 / 0 / 3	教育
8/21	学習サポーター (古川西小) (4)	2 / 4 / 5	教育
8/26	文化村サマーフェス (8)	2 / 7 / 8	観光
8/	国府児童館 (4)	3 / 4 / 8	教育
8/	アルカディア (4)	3 / 2 / 0	福祉

9/23	きつね火まつり (8)	4 / 0 / 0	観光
10/1	ぼくらのはたらくくるま (8)	0 / 3 / 0	教育
10/2	和光園清掃活動 (2)	24 / 35 / 23	福祉
11/2	図上災害訓練 (1)	0 / 133 / 0	防災
11/2	ひまわりプロジェクト 種選別 (1)	113 / 0 / 0	防災
11/5	のくとまりマーケット (8)	7 / 2 / 0	観光
11/9	ひまわりプロジェクト 種選別 (1)	0 / 133 / 0	防災
11/20	将来を支える福祉人材育成 (1)	113 / 0 / 0	福祉

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇理数科の活性化（校外研修、出前講座、小学生サイエンス教室）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒・保護者とも、外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会についての評価が高い。 ・研修内容、講師の選出	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・校外研修、出前講座、小学生サイエンス教室の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・理科、数学科との共同 ・キャリア推進部との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) サイエンスワールド周辺の研修施設の検討 (2) 出前講座での多方面からの講師の選出 (3) キャリア推進部との連携、小学校への働きかけ	(1) 生徒の満足度、レポート (2) 生徒の満足度、レポート (3) 応募児童数、満足度	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・京都大学霊長類研究所の見学、日本モンキーセンターでのワークショップの実践 ・出前講座での文系講師の検討。民間講師の選出 ・小学生サイエンス教室では、人工結晶の生成、浮沈子、人工イクラの作成実習	①研修の目的を理解し、実践できたか ②講義内容を理解し、得るものがあつたか ③児童は満足できたか	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○京都大学霊長類研究所の見学、日本モンキーセンターでのワークショップは、ほとんどの生徒が興味関心を持って参加できて有意義な研修ができた。 ○出前講座では、世界にないモノ造りの最前線で活躍された研究者から貴重なお話を聞くことができ、生徒の興味関心を高め進路選択の参考にもなった。 ○小学生サイエンス教室では、多くの児童の参加が得られた。 ●文系生徒への行事対応ができなかった。 ●理科への偏り。	
12 来年度に向けての改善方策案。 ・出前授業やその他行事での文系生徒対応。 ・小学生サイエンス教室での数学テーマの実施。 ・岐阜県版SSHを活用した行事運営。		

【意見・要望・評価等】

YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクトを中心とする学校の取組について

＜評価される点＞

- ・発表会に参加して、生徒にはこんなにも素晴らしい力があるのだと感心した。
- ・自分が生徒だった時と比べて、今の生徒には自主性が感じられた。今後の活動が楽しみである。高校生の方にも街づくりにも参加してもらいたい。青年会議所としても、高校生が参加できる企画を考えたい。
- ・生徒が企画して、課題を見つけそれを解決していくというプロジェクトを見て感心した。
- ・吉城高校生が地域に出て行って、主体的に活動している姿を知って大変感心した。
- ・企業では問題解決能力が特に大切である。YCKの活動はまさにその力を育てている。この活動を続けることで、将来的に素晴らしい人材が育つと期待する。
- ・素晴らしい発表だった。今度は地域が吉城高校のために何かしてやりたいと思えるようになるといい。
- ・YCKを通して成功体験をしたと思う。成功体験のある生徒とない生徒の差は大きい。吉城高校全体として底上げを期待したい。YCKが生徒の心に火をつける活動である。発見を与える場になるとよい。
- ・中学生にも見せたいという思いが強くなった。
- ・高校生が地域で自発的に活動している姿に感銘を受けた。最初は英語観光案内ボランティアから始まったと認識しているが、色々な可能性を広げつつあると感じた。市長がパネリストとしてステージに上がって話をされる活動にまで発展している。生徒が自分の可能性を広げつつあると感じた。
- ・YCKの活動を通して、近くでリーダーの成長を目近に見させてもらえた。舞台裏で一息懸命練習する姿を見たり、以前は小さい声だったのに今ではステージの上で堂々と話したりする姿を目の当たりにして、先生方の苦勞と喜びを感じることができた。
- ・ラーニング、アクション、フォローの三段階をうまく使いながら活動をしていた。生徒は達成感を感じたのではないか。学校の外へ出た学びには、地域教育力が必要であり、例えば、インターシップ、外部活力導入支援などがある。しかし、YCKは更に別のよさもある。それは、学校の外へ出て自ら課題を発見して、解決していく点である。もちろん地域の方々に支援をいただいているが、この一連の活動を体験できることは、学びとして素晴らしいことである。

＜改善すべき点＞

- ・携わった生徒はたくさんいると思うが、もっと全校の生徒に広まって、自ら参加するようになるとさらによい企画になるのではないか。そうすると、もっと深く地域とつながると思う。飛騨市に限らず高山市にも広がっていくと、飛騨地区全体に吉城高校のよさが伝わっていくだろうと感じた。
- ・課題に対しての考察の部分がもっとあるとよかった。例えば、地域にもっとこんなことができるとよかったとか、自分たちが活動を通して感じた課題などをもっと発表してもらえるとよかった。
- ・地域と関わって活動しているにも関わらず、まだまだ地域の方は知らない。もっと地域に積極的に発信してもよいのではないか。

＜その他＞

- ・YCKは今一番、求められている教育プロジェクトである。今の時代、自分で考え、自分で解決していく力が求められている。この力は人生を拓いていくための力だと考えると、やはり学校教育が中心となって補っていく部分ではないか。YCKの活動を通して、生徒たちに自分たちの町の課題を知ってもらうことが、ゆくゆくは自分の町へ将来戻ってくるきっかけにもなる。吉城高校の活動は飛騨地域の中では突出していると自負している。YCKの生徒たちだけでなく、先生達も地域に飛び出すことも大切だと感じる。
- ・地域の課題の解決だけでなく、自分たちの目の前にある問題を解決していくことも、いい学びにつながる。このプロジェクトが一部の生徒だけの活動ではなく、「吉城高校では当たり前です。」と全生徒が自信をもって言える活動に位置付けていただきたい。中学校と高校の間でオープンな連携をお願いしたい。